

1 企画展

伊東深水展

- 会期 平成18年4月28日(金)～6月4日(日)
- 主催 茨城県天心記念五浦美術館
- ポスター B 2
- チラシ A 4
- 図録 300×228mm 160頁
編集・発行：京都新聞社
- 入場者数 28,539人
- 観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円／
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金及び入館引換券(JR東日本びゅうプラザ、緑の窓口で発売)料金
- 出品点数 73点
- 内容解説
伊東深水(1898-1972)は東京深川に生まれ、大正、昭和を通じて人物画の分野を中心に活躍した。深水は13歳で鏗木清方入門、16歳で院展に入選するなど早くからその才能を開花させ、その翌年には文展に入選するなど若くして画家としての地歩を固めた。その後、帝展、日展などを舞台に日本画壇の重鎮として活躍し、また画塾を主催するなど若手の育成にも力を注ぎ、昭和33(1958)年には日本芸術院会員に推挙された。
深水は浮世絵の伝統を継承しながら、鮮やかな色彩と流麗な線描により同時代の生活風俗などを愛情豊かに描き出した。とりわけリアルで澁刺とした女性像を得意とし、数多くの名作を残した。
本展覧会では、《湯気》や《指》といった代表作をはじめ、初期から晩年までの名作73点と素描5点を展示し、その60年に渡る画業を回顧しながら深水芸術の真髄とその魅力を紹介した。
- 担当学芸員 澤渡麻里

- 関連事業
ギャラリートーク
担当 澤渡麻里(学芸員)
日時 5月14日(日) 午後1時30分～2時30分
5月20日(土) 午後1時30分～2時30分
会場 展示室A・B・C
- 関連記事
・28日から「伊東深水展」 北茨城の県天心記念五浦美術館 平成18年4月15日(土)【常陽新聞】
・女性像の名作一堂に 県天心記念五浦美術館 伊東深水の画業紹介 平成18年5月4日(木)【茨城新聞】
・北茨城の県天心記念五浦美術館 美人画家の伊東深水 来月4日まで作品展 平成18年5月9日(火)【常陽新聞】
・人物画中心に活躍 伊東深水展 優美にしてモダン 麗しの女性たち 県天心記念五浦美術館 平成18年5月10日(水)【毎日新聞】
・華麗なる女性美80点 北茨城で伊東深水展 平成18年5月10日(水)【産経新聞】
・伊東深水の画業回顧 平成18年5月16日(火)【読売新聞】
・伊東深水の世界 県天心記念五浦美術館企画展から 1 《指》官能と情緒交えて描く 県天心記念五浦美術館学芸員 澤渡麻里 平成18年5月17日(水)【茨城新聞】
・伊東深水の世界 県天心記念五浦美術館企画展から 2 《聞香》物静かで真剣な雰囲気 県天心記念五浦美術館学芸員 澤渡麻里 平成18年5月18日(木)【茨城新聞】
・伊東深水の世界 県天心記念五浦美術館企画展から 3 《姿見》妖艶なまなごし蠱惑的 県天心記念五浦美術館学芸員 澤渡麻里 平成18年5月19日(金)【茨城新聞】
・伊東深水の世界 県天心記念五浦美術館企画展から 4 《月の出》(雪月花三部作の月) 背景の秋草 描写が繊細 県天心記念五浦美術館学芸員 澤渡麻里 平成18年5月20日(土)【茨城新聞】
・伊東深水の世界 県天心記念五浦美術館企画展から 5 《菊を活ける勅使河原霞女史》 細密描写が見事に調和 県天心記念五浦美術館学芸員 澤渡麻里 平成18年5月21日(日)【茨城新聞】



ポスターB 2



図録



チラシA 4

●関連放送

・「スクーパーレポート」

5月11日(金)【茨城放送】

・「おもしろミュージアム」

5月11日(金)【FMいわき】

●出品作品一覧

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(たて×よこ)cm	出品歴	所蔵先
1	恵比寿大黒	明治45年(1912)	絹本着色・軸装	113.5×41.5		
2	春日	明治45年頃(1912頃)	紙本着色・額装	76.9×52.5		茨城県近代美術館
3	日本橋(鳥追い)	明治45年頃(1912頃)	紙本着色・軸装	108.2×29.6		
4	笠森お仙	大正6年(1917)	絹本着色・額装	110.0×94.5		
5	雪に暮るる町	大正9年(1920)	絹本着色・軸装	141.0×50.5		
6	椿	大正9年(1920)	紙本着色・六曲一隻	169.0×362.0	第5回郷土会展	岐阜県美術館
7	指	大正11年(1922)	絹本着色・軸装	170.0×110.5	平和記念東京博覧会美術展・二等銀牌	
8	髪結師	大正12年(1923)	絹本着色・軸装	142.0×49.5		
9	湯気	大正13年(1924)	絹本着色・額装	103.0×93.5	第9回郷土会展	名都美術館
10	春宵	昭和初期	絹本着色・軸装	124.0×40.2		
11	美人図屏風 ことつ・鏡の前	昭和3年(1928)	紙本着色・二曲一双	各146.0×144.0		
12	婦女潮干狩図	昭和4年(1929)	麻本着色・六曲一隻	177.5×368.0	第14回郷土会展	
13	浄晨	昭和5年(1930)	絹本着色・額装	215.0×140.0	第11回帝展	
14	露	昭和6年(1931)	紙本着色・二曲一隻	167.0×172.0	第12回帝展	東京国立近代美術館
15	春宵	昭和6年(1931)	絹本着色・額装	65.0×96.0	第2回朗峯画塾展	
16	暮方	昭和7年(1932)	絹本着色・額装(二面)	各175.5×117.5	第1回青々会展	
17	宵	昭和8年(1933)	絹本着色・軸装	79.6×99.0	第2回青々会展	埼玉県立近代美術館
18	麗日	昭和9年(1934)	紙本金地着色・六曲一双	各176.6×423.0	第3回青々会展	名都美術館
19	晚涼	昭和10年(1935)	絹本着色・軸装	48.5×58.0	多聞洞新作画展	
20	さくら(未完成作)	昭和14年(1939)	紙本金地着色・六曲一双	各162.5×366.0		
21	爽涼	昭和14年(1939)	絹本着色・額装	87.0×105.0	第9回朗峯画塾展	
22	団扇	昭和14年頃(1939頃)	絹本着色・額装	50.5×49.5		
23	鏡獅子	昭和15年頃(1940頃)	絹本着色・軸装	62.0×73.0		掛川市二の丸美術館
24	桜(春酣)	昭和21年(1946)	絹本金地着色・六曲一隻	154.4×352.2	第1回日本美術及工芸交易振興展	
25	吹雪	昭和21年(1946)	絹本着色・軸装	67.4×72.8		岐阜府博物館
26	吹雪	昭和21年頃(1946頃)	絹本着色・軸装	67.3×72.8		西宮市大谷記念美術館
27	雪もちの梅	昭和21年頃(1946頃)	絹本金地着色・二曲一隻	168.5×172.4		
28	鏡	昭和22年(1947)	絹本着色・額装	169.0×110.0	第3回日展	岐阜県美術館
29	雪	昭和22年頃(1947頃)	絹本着色・軸装	141.5×51.2		
30	夜長	昭和22年頃(1947頃)	絹本着色・額装	62.4×72.6		岐阜水野美術館
31	朝顔と少女	昭和23年(1948)	絹本着色・軸装	87.0×105.0	第4回日展	滋賀県立近代美術館
32	長夜	昭和23年頃(1948頃)	絹本着色・額装	64.0×71.1		大垣市教育委員会
33	髪	昭和24年(1949)	絹本着色・二曲一隻	166.8×166.8	第9回青衿会展	
34	姉弟	昭和25(1950)	絹本着色・二曲一隻	171.6×172.8	第1回日月社展	
35	聞香	昭和25(1950)	絹本着色・額装	144.0×172.5	第6回日展	東京国立近代美術館
36	螢籠	昭和25頃(1950頃)	絹本着色・軸装	46.0×51.0		
37	深雪	昭和25-26(1950-1951)	絹本着色・軸装	62.2×71.1		MOA美術館
38	清方先生像	昭和26(1951)	絹本着色・軸装	104.0×88.5	第2回日月社展	東京国立近代美術館
39	ささやき	昭和27(1952)	紙本着色・額装	66.5×72.7		青梅信用金庫
40	春	昭和27(1952)	絹本着色・額装	65.8×72.5	第1回伊東深水新作展	山種美術館
41	山躰躰	昭和28(1953)	絹本着色・額装	73.4×65.0		岐阜ゼノン現代美術館
42	春宵(東おどり)	昭和29(1954)	紙本金地着色・四曲一双	各174.0×261.0	清方・深水・紫明風俗画展	高崎市タワー美術館
43	都鳥	昭和29(1954)	絹本着色・額装	81.0×87.0	清方・深水・紫明風俗画展	
44	紫陽花	昭和29(1954)	絹本着色・額装	70.5×62.0	三十五人展	岐阜ゼノン現代美術館

No.	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(たて×よこ)cm	出品歴	所蔵先
45	楽屋	昭和29年(1954)	紙本着色・額装	75.0×52.5		
46	四季美人・夏	昭和29年頃(1954頃)	絹本着色・額装	65.0×71.5		
47	戸外は春雨	昭和30年(1955)	紙本着色・卷子	各61.5×165.5	第6回日月社展	福富太郎コレクション
48	宋磁	昭和30年(1955)	紙本着色・額装	168.5×168.5	第11回日展	
49	伽羅	昭和30年頃(1955頃)	絹本着色・額装	49.0×57.5		
50	春宵	昭和30年頃(1955頃)	絹本着色・額装	49.5×57.0		
51	黒いドレス	昭和31年(1956)	紙本着色・額装	137.0×95.0	第7回日月社展	
52	赤と白A・B	昭和31年(1956)	紙本着色・額装(一対)	各75.0×60.0	第4回日月社小品展	
53	清涼	昭和31年頃(1956頃)	紙本着色・額装	72.0×90.0		
54	舞	昭和31年頃(1956頃)	紙本着色・額装	74.0×63.0		
55	婦人像	昭和32年(1957)	紙本着色・額装	67.0×72.3	第3回伊東深水新作展	山種美術館
56	踊り子	昭和32年(1957)	紙本着色・額装	68.0×72.5	第3回伊東深水新作展	
57	湯気	昭和32年頃(1957頃)	紙本着色・額装	74.5×59.5		
58	姿見	昭和33年(1958)	紙本着色・額装	76.0×54.5		
59	針仕事	昭和33年(1958)	紙本着色・額装	75.0×69.0		
60	黒髪	昭和33年(1958)	紙本着色・額装	85.0×76.0	第9回日月社展	
61	鏡獅子	昭和33年(1958)	紙本着色・額装	77.5×86.8		
62	ささやき	昭和34年(1959)	絹本着色・額装	63.5×71.5		
63	愚痴	昭和34年(1959)	紙本着色・額装	144.5×116.0	第2回新日展	
64	菊	昭和36年(1961)	紙本着色・額装	59.6×55.8		西宮市大谷記念美術館
65	桜美人	昭和36年(1961)	紙本着色・額装	44.0×37.0		伊東近代美術館
66	初夏の庭	昭和36年(1961)	紙本着色・額装	76.5×67.5	第9回臯月会展	伊東近代美術館
67	雪の夕(雪月花三部作の雪)	昭和37年(1962)	紙本着色・額装	132.5×105.0	画道50年記念伊東深水展	
68	月の出(雪月花三部作の月)	昭和37年(1962)	紙本着色・額装	132.0×105.0	画道50年記念伊東深水展	
69	春の宵(雪月花三部作の花)	昭和37年(1962)	紙本着色・額装	132.5×104.0	画道50年記念伊東深水展	
70	ペルシャ壺と椿	昭和38年(1963)	紙本着色・額装	82.5×63.2	第7回日本国際美術展	資生堂アートハウス
71	福春	昭和40年頃(1965頃)	紙本着色・額装	70.3×52.0		
72	菊を活ける勅使河原霞女史	昭和41年(1966)	紙本着色・額装	153.0×106.5	第9回新日展	草月会
73	湯気	昭和43年(1968)	紙本着色・額装	53.0×40.5		伊東近代美術館

◆素描

1	にわか雨	額装	65.5×76.0
2	紫陽花	額装	72.5×57.5
3	楽屋	額装	60.5×54.5
4	少女	額装	54.5×60.5
5	洋装婦人	額装	60.5×54.5

広重と北斎の東海道五十三次と浮世絵名品展 歌麿・写楽から幕末バラエティーまで

- 会期 平成18年 7月22日(土)～8月27日(日)
- 主催 茨城県天心記念五浦美術館
- ポスター B 2
- チラシ A 4
- 図録 295×225mm 88頁
編集：E.M.I.ネットワーク
発行：茨城県天心記念五浦美術館
- 入場者数 20,419人
- 観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円／
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金及び入館引換券(JR東日本びゅうプラザ、緑の窓口で発売)料金
- 出品点数 216点
- 内容解説
浮世絵は江戸庶民の間で人気のあった歌舞伎役者やファッションなど時の流行を伝達するとともに、よく知られていた名所風景の新たな魅力を身近に伝える情報メディアとして普及し、大衆の趣味や嗜好などを反映しながら人情味豊かな作品を数多く生みだしていった。そこに見られる巧みな画面構成や鮮やかな色彩表現は斬新であり、わが国独自の芸術として今日でも高く評価されている。
本展では、道中の光景や人々の暮らしを伝える歌川広重の名作《東海道五拾三次》(保永堂版)、《五十三次名所図会》(縦絵東海道)と葛飾北斎の《東海道五十三次》(小判)のシリーズ全作品を比較展示した。また、喜多川歌麿とその流れを汲む絵師たちの美人画、東洲斎写楽の役者絵、風景画の革命児である葛飾北斎の《富嶽三十六景 凱風快晴》、開港地横浜の風俗を描いた「横浜絵」、伝奇小説や怪談をテーマにした「妖怪絵」、ユーモアに溢れるだまし絵等、バラエティーに富む浮世絵216点を一堂に展示した。
- 担当 武石 洋(首席学芸主事)

●関連事業

美術講演会

講演名 「歌川広重《東海道五拾三次》の謎と魅力」
講師 中右 瑛(国際浮世絵学会常任理事)
日時 8月5日(土) 午後1時30分～3時
会場 講堂

伝統木版画の摺り実演会

日時 7月30日(日) 2回実演
第1回目 午前11時～午後12時30分
第2回目 午後1時30分～3時

会場 講座室

協力 (財)アダチ伝統木版画技術保存財団

浮世絵摺り体験

日時 8月1日(火)～27日(日)
※但し休館日及び8月9日(水)、23日(水)、
24日(木)は除く。

会場 講座室

ギャラリートーク

担当 武石 洋(首席学芸主事)
日時 7月29日(土) 午後1時30分～2時30分
8月19日(土) 午後1時30分～2時30分
会場 展示室A・B・C

子どものためのギャラリートーク

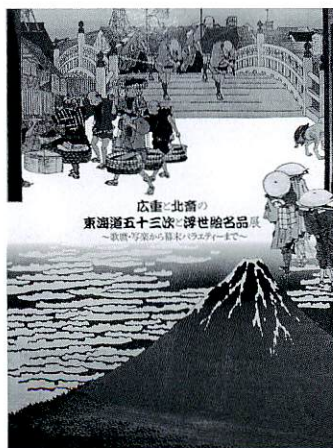
担当 檜山 政志(首席学芸主事)
日時 8月12日(土) 午後1時30分～2時30分
8月20日(日) 午後1時30分～2時30分
会場 展示室A・B・C

●関連記事

- ・「広重と北斎の東海道五十三次と浮世絵名品展」
7月19日(水)【週刊茨城朝日】
- ・「広重や北斎 一堂に あすから県五浦美術館」
7月21日(金)【産経新聞】
- ・「五浦美術館で企画展 広重と北斎の五十三次 歌麿・写楽も名品紹介」
7月24日(月)【茨城新聞】
- ・「広重と北斎の東海道五十三次と浮世絵名品展」
7月28日(金)【日本経済新聞】



ポスターB 2



図録



チラシA 4

- ・「広重と北斎の東海道五十三次と浮世絵名品展—歌麿・写楽から幕末バラエティーまで」8月5日(土)【朝日新聞】
- ・「浮世絵の名作一堂に 県天心記念五浦美術館で広重と北斎の東海道五十三次と浮世絵名品展 27日まで」
8月9日(水)【常陽新聞】
- ・「広重と北斎 浮世絵の魅力 東海道 宿場ごとに展示」
8月12日(土)【読売新聞】
- ・浮世絵名品展 県天心記念五浦美術館企画展から上 歌川広重「東海道五拾三次 日本橋」巧みな表現は斬新(武石洋)
8月19日(土)【茨城新聞】

- ・浮世絵名品展 県天心記念五浦美術館企画展から中 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」西洋的遠近法で雄大に(武石洋) 8月20日(日)【茨城新聞】
- ・浮世絵名品展 県天心記念五浦美術館企画展から下 東洲斎写楽「四代目岩井半四郎の乳母 重の井」演技の一時 デフォルメ(武石洋) 8月21日(月)【茨城新聞】
- 関連放送
- ・「みんなの教育」 7月26日(水)【茨城放送】
- ・「スクーピーレポート」 8月1日(火)【茨城放送】
- ・「おもしろミュージアム」 8月18日(金)【FMいわき】

●出品作品一覧

No.	絵師名	作品名	制作年	形状
1	広重と北斎の東海道五十三次			
1	歌川広重	東海道五拾三次 日本橋	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
2	歌川広重	東海道五拾三次 品川	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
3	歌川広重	東海道五拾三次 川崎	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
4	歌川広重	東海道五拾三次 神奈川	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
5	歌川広重	東海道五拾三次 保土ヶ谷	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
6	歌川広重	東海道五拾三次 戸塚	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
7	歌川広重	東海道五拾三次 藤澤	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
8	歌川広重	東海道五拾三次 平塚	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
9	歌川広重	東海道五拾三次 大磯	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
10	歌川広重	東海道五拾三次 小田原	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
11	歌川広重	東海道五拾三次 箱根	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
12	歌川広重	東海道五拾三次 三島	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
13	歌川広重	東海道五拾三次 沼津	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
14	歌川広重	東海道五拾三次 原	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
15	歌川広重	東海道五拾三次 吉原	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
16	歌川広重	東海道五拾三次 蒲原	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
17	歌川広重	東海道五拾三次 由井	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
18	歌川広重	東海道五拾三次 奥津	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
19	歌川広重	東海道五拾三次 江尻	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
20	歌川広重	東海道五拾三次 府中	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
21	歌川広重	東海道五拾三次 鞠子	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
22	歌川広重	東海道五拾三次 岡部	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
23	歌川広重	東海道五拾三次 藤枝	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
24	歌川広重	東海道五拾三次 嶋田	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
25	歌川広重	東海道五拾三次 金谷	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
26	歌川広重	東海道五拾三次 日坂	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
27	歌川広重	東海道五拾三次 掛川	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
28	歌川広重	東海道五拾三次 袋井	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
29	歌川広重	東海道五拾三次 見附	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
30	歌川広重	東海道五拾三次 濱松	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
31	歌川広重	東海道五拾三次 舞坂	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
32	歌川広重	東海道五拾三次 荒井	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
33	歌川広重	東海道五拾三次 白須賀	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
34	歌川広重	東海道五拾三次 二川	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
35	歌川広重	東海道五拾三次 吉田	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
36	歌川広重	東海道五拾三次 御油	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
37	歌川広重	東海道五拾三次 赤阪	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
38	歌川広重	東海道五拾三次 藤川	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
39	歌川広重	東海道五拾三次 岡崎	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
40	歌川広重	東海道五拾三次 池鯉鮒	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
41	歌川広重	東海道五拾三次 鳴海	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
42	歌川広重	東海道五拾三次 宮	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
43	歌川広重	東海道五拾三次 桑名	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判
44	歌川広重	東海道五拾三次 四日市	天保4-5年(1833-1834)	錦絵大判

No.	絵師名	作品名	制作年	形状
45	歌川広重	東海道五拾三次 石薬師	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
46	歌川広重	東海道五拾三次 庄野	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
47	歌川広重	東海道五拾三次 亀山	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
48	歌川広重	東海道五拾三次 関	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
49	歌川広重	東海道五拾三次 阪之下	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
50	歌川広重	東海道五拾三次 土山	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
51	歌川広重	東海道五拾三次 水口	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
52	歌川広重	東海道五拾三次 石部	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
53	歌川広重	東海道五拾三次 草津	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
54	歌川広重	東海道五拾三次 大津	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
55	歌川広重	東海道五拾三次 京師	天保4・5年(1833-1834)	錦絵大判
56	歌川広重	東海道五拾三次 日本橋	後摺り	錦絵大判
57	歌川広重	東海道五拾三次 戸塚	後摺り	錦絵大判
58	歌川広重	東海道五拾三次 蒲原	後摺り	錦絵大判
59	歌川広重	東海道五拾三次 池鯉鮒	後摺り	錦絵大判
60	歌川広重	東海道五拾三次 大津	後摺り	錦絵大判
61	歌川広重	五十三次名所図会 日本橋	安政2年(1855)	錦絵大判
62	歌川広重	五十三次名所図会 品川	安政2年(1855)	錦絵大判
63	歌川広重	五十三次名所図会 川崎	安政2年(1855)	錦絵大判
64	歌川広重	五十三次名所図会 神奈川	安政2年(1855)	錦絵大判
65	歌川広重	五十三次名所図会 程ヶ谷	安政2年(1855)	錦絵大判
66	歌川広重	五十三次名所図会 戸塚	安政2年(1855)	錦絵大判
67	歌川広重	五十三次名所図会 藤澤	安政2年(1855)	錦絵大判
68	歌川広重	五十三次名所図会 平塚	安政2年(1855)	錦絵大判
69	歌川広重	五十三次名所図会 大磯	安政2年(1855)	錦絵大判
70	歌川広重	五十三次名所図会 小田原	安政2年(1855)	錦絵大判
71	歌川広重	五十三次名所図会 箱根	安政2年(1855)	錦絵大判
72	歌川広重	五十三次名所図会 三嶋	安政2年(1855)	錦絵大判
73	歌川広重	五十三次名所図会 沼津	安政2年(1855)	錦絵大判
74	歌川広重	五十三次名所図会 原	安政2年(1855)	錦絵大判
75	歌川広重	五十三次名所図会 吉原	安政2年(1855)	錦絵大判
76	歌川広重	五十三次名所図会 蒲原	安政2年(1855)	錦絵大判
77	歌川広重	五十三次名所図会 由井	安政2年(1855)	錦絵大判
78	歌川広重	五十三次名所図会 奥津	安政2年(1855)	錦絵大判
79	歌川広重	五十三次名所図会 江尻	安政2年(1855)	錦絵大判
80	歌川広重	五十三次名所図会 府中	安政2年(1855)	錦絵大判
81	歌川広重	五十三次名所図会 鞠子	安政2年(1855)	錦絵大判
82	歌川広重	五十三次名所図会 岡部	安政2年(1855)	錦絵大判
83	歌川広重	五十三次名所図会 藤枝	安政2年(1855)	錦絵大判
84	歌川広重	五十三次名所図会 島田	安政2年(1855)	錦絵大判
85	歌川広重	五十三次名所図会 金谷	安政2年(1855)	錦絵大判
86	歌川広重	五十三次名所図会 日坂	安政2年(1855)	錦絵大判
87	歌川広重	五十三次名所図会 掛川	安政2年(1855)	錦絵大判
88	歌川広重	五十三次名所図会 袋井	安政2年(1855)	錦絵大判
89	歌川広重	五十三次名所図会 見附	安政2年(1855)	錦絵大判
90	歌川広重	五十三次名所図会 濱松	安政2年(1855)	錦絵大判
91	歌川広重	五十三次名所図会 舞坂	安政2年(1855)	錦絵大判
92	歌川広重	五十三次名所図会 荒井	安政2年(1855)	錦絵大判
93	歌川広重	五十三次名所図会 白須賀	安政2年(1855)	錦絵大判
94	歌川広重	五十三次名所図会 二川	安政2年(1855)	錦絵大判
95	歌川広重	五十三次名所図会 吉田	安政2年(1855)	錦絵大判
96	歌川広重	五十三次名所図会 御油	安政2年(1855)	錦絵大判
97	歌川広重	五十三次名所図会 赤坂	安政2年(1855)	錦絵大判
98	歌川広重	五十三次名所図会 藤川	安政2年(1855)	錦絵大判
99	歌川広重	五十三次名所図会 岡崎	安政2年(1855)	錦絵大判
100	歌川広重	五十三次名所図会 池鯉鮒	安政2年(1855)	錦絵大判
101	歌川広重	五十三次名所図会 鳴海	安政2年(1855)	錦絵大判
102	歌川広重	五十三次名所図会 宮	安政2年(1855)	錦絵大判
103	歌川広重	五十三次名所図会 桑名	安政2年(1855)	錦絵大判
104	歌川広重	五十三次名所図会 四日市	安政2年(1855)	錦絵大判
105	歌川広重	五十三次名所図会 石薬師	安政2年(1855)	錦絵大判
106	歌川広重	五十三次名所図会 庄野	安政2年(1855)	錦絵大判
107	歌川広重	五十三次名所図会 亀山	安政2年(1855)	錦絵大判
108	歌川広重	五十三次名所図会 関	安政2年(1855)	錦絵大判
109	歌川広重	五十三次名所図会 坂の下	安政2年(1855)	錦絵大判

No.	絵師名	作品名	制作年	形状
110	歌川広重	五十三次名所図会 土山	安政2年(1855)	錦絵大判
111	歌川広重	五十三次名所図会 水口	安政2年(1855)	錦絵大判
112	歌川広重	五十三次名所図会 石部	安政2年(1855)	錦絵大判
113	歌川広重	五十三次名所図会 草津	安政2年(1855)	錦絵大判
114	歌川広重	五十三次名所図会 大津	安政2年(1855)	錦絵大判
115	歌川広重	五十三次名所図会 京	安政2年(1855)	錦絵大判
116	柳川重信	東海道五十三次 日本橋	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判
117	葛飾北斎	東海道五十三次 品川	享和4年(1803)	錦絵小判
118	葛飾北斎	東海道五十三次 川崎	享和4年(1803)	錦絵小判
119	葛飾北斎	東海道五十三次 神奈川	享和4年(1803)	錦絵小判
120	葛飾北斎	東海道五十三次 程ヶ谷	享和4年(1803)	錦絵小判
121	葛飾北斎	東海道五十三次 戸塚	享和4年(1803)	錦絵小判
122	葛飾北斎	東海道五十三次 藤沢	享和4年(1803)	錦絵小判
123	葛飾北斎	東海道五十三次 平塚	享和4年(1803)	錦絵小判
124	葛飾北斎	東海道五十三次 大磯	享和4年(1803)	錦絵小判
125	葛飾北斎	東海道五十三次 小田原	享和4年(1803)	錦絵小判
126	葛飾北斎	東海道五十三次 箱根	享和4年(1803)	錦絵小判
127	葛飾北斎	東海道五十三次 三島	享和4年(1803)	錦絵小判
128	葛飾北斎	東海道五十三次 沼津	享和4年(1803)	錦絵小判
129	柳川重信	東海道五十三次 原	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判
130	葛飾北斎	東海道五十三次 吉原	享和4年(1803)	錦絵小判
131	葛飾北斎	東海道五十三次 蒲原	享和4年(1803)	錦絵小判
132	葛飾北斎	東海道五十三次 由井	享和4年(1803)	錦絵小判
133	葛飾北斎	東海道五十三次 奥津	享和4年(1803)	錦絵小判
134	葛飾北斎	東海道五十三次 江尻	享和4年(1803)	錦絵小判
135	葛飾北斎	東海道五十三次 府中	享和4年(1803)	錦絵小判
136	柳川重信	東海道五十三次 鞠子	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判
137	葛飾北斎	東海道五十三次 岡部	享和4年(1803)	錦絵小判
138	柳川重信	東海道五十三次 藤枝	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判
139	葛飾北斎	東海道五十三次 島田	享和4年(1803)	錦絵小判
140	葛飾北斎	東海道五十三次 金谷	享和4年(1803)	錦絵小判
141	葛飾北斎	東海道五十三次 日坂	享和4年(1803)	錦絵小判
142	葛飾北斎	東海道五十三次 掛川	享和4年(1803)	錦絵小判
143	葛飾北斎	東海道五十三次 袋井	享和4年(1803)	錦絵小判
144	葛飾北斎	東海道五十三次 見附	享和4年(1803)	錦絵小判
145	葛飾北斎	東海道五十三次 濱松	享和4年(1803)	錦絵小判
146	葛飾北斎	東海道五十三次 舞坂	享和4年(1803)	錦絵小判
147	葛飾北斎	東海道五十三次 荒井	享和4年(1803)	錦絵小判
148	葛飾北斎	東海道五十三次 白須賀	享和4年(1803)	錦絵小判
149	葛飾北斎	東海道五十三次 二川	享和4年(1803)	錦絵小判
150	葛飾北斎	東海道五十三次 吉田	享和4年(1803)	錦絵小判
151	葛飾北斎	東海道五十三次 御油	享和4年(1803)	錦絵小判
152	葛飾北斎	東海道五十三次 赤坂	享和4年(1803)	錦絵小判
153	葛飾北斎	東海道五十三次 藤川	享和4年(1803)	錦絵小判
154	葛飾北斎	東海道五十三次 岡崎	享和4年(1803)	錦絵小判
155	葛飾北斎	東海道五十三次 池鯉鮒	享和4年(1803)	錦絵小判
156	柳川重信	東海道五十三次 鳴海	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判
157	柳川重信	東海道五十三次 宮	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判
158	葛飾北斎	東海道五十三次 桑名	享和4年(1803)	錦絵小判
159	葛飾北斎	東海道五十三次 四日市	享和4年(1803)	錦絵小判
160	葛飾北斎	東海道五十三次 石薬師	享和4年(1803)	錦絵小判
161	葛飾北斎	東海道五十三次 庄野	享和4年(1803)	錦絵小判
162	葛飾北斎	東海道五十三次 龜山	享和4年(1803)	錦絵小判
163	葛飾北斎	東海道五十三次 関	享和4年(1803)	錦絵小判
164	葛飾北斎	東海道五十三次 坂ノ下	享和4年(1803)	錦絵小判
165	葛飾北斎	東海道五十三次 土山	享和4年(1803)	錦絵小判
166	葛飾北斎	東海道五十三次 水口	享和4年(1803)	錦絵小判
167	葛飾北斎	東海道五十三次 石部	享和4年(1803)	錦絵小判
168	葛飾北斎	東海道五十三次 草津	享和4年(1803)	錦絵小判
169	葛飾北斎	東海道五十三次 大津	享和4年(1803)	錦絵小判
170	柳川重信	東海道五十三次 京	文政年間頃(c.1818-1830)	錦絵小判

2 旅模様・東海道中膝栗毛

171	歌川広重	膝栗毛道中雀 京都大仏殿	天保中期頃	錦絵大判
172	歌川広重	道中膝栗毛 参宮道白子	天保中期頃	錦絵大判

No	絵師名	作品名	制作年	形状
173	歌川広重	道中膝栗毛 瀬戸川	天保中期頃	錦絵大判
174	三代豊国	東海道五十三次之内 江尻(弥次郎兵衛)	嘉永5年(1852)	錦絵大判
175	三代豊国	東海道五十三次之内 府中(喜多八)	嘉永5年(1852)	錦絵大判
3 ゴッホと広重				
176	歌川広重	名所江戸百景 亀戸梅屋舗	安政4年(1857)	錦絵大判
177	歌川広重	名所江戸百景 大はしあたけの夕立	安政4年(1857)	錦絵大判
4 黄金期の浮世絵アラカルト				
178	勝川春章	揚巻と助六		錦絵大判
179	東洲斎写楽	四代目岩井半四郎の乳母 重の井	寛政6年(1794)	錦絵大判
180	勝川春好	三升市川团十郎の暫		錦絵細判
181	勝川春英	大和屋 杜若		錦絵細判
182	歌川豊国	役者舞台之姿絵 きの国や	寛政6年頃(c.1794)	錦絵大判
183	歌川国貞	大当狂言の内 与次郎	文化11年頃(c.1814)	錦絵大判
184	鳥居清長	隅田川の料亭		錦絵大判二枚続
185	鳥文斎栄之	若那初衣裳	寛政7年頃(1795)	錦絵大判
186	喜多川歌麿	婦人相学拾鉢 かねつけ	寛政3-4年(1791-1792)	錦絵大判
187	喜多川歌麿	青楼十二時 寅の刻	寛政6年頃(c.1794)	錦絵大判
188	菊川英山	江戸花美人合 雪		錦絵大判
189	溪斎英泉	浮世風俗美女競	文政5年頃(c.1822)	錦絵大判
190	勝川春扇	江戸八景ノ内 両国の夕照	文化中・後期(1804-1818)	錦絵大判三枚続
191	歌川国貞	三囲の初雪		錦絵大判三枚続
192	歌川国芳	八町つづみ夜のけい		錦絵大判三枚続
193	豊原国周	艶姿化粧自慢 結び上げ		錦絵大判
194	歌川広重	江戸名所四季の眺 高輪月の景		錦絵大判三枚続
195	歌川広重	上野不忍の池 雪の景		錦絵大判三枚続
196	春風舎	はうたの窓 すみだ川		錦絵大判
197	葛飾北斎	富嶽三十六景 凱風快晴	天保2-5年(1831-1834)	錦絵大判
198	葛飾北斎	富嶽三十六景 山下白雨	天保2-5年(1831-1834)	錦絵大判
199	葛飾北斎	富嶽三十六景 甲州石班沢	天保2-5年(1831-1834)	錦絵大判
200	葛飾北斎	富嶽三十六景 常州牛堀	天保2-5年(1831-1834)	錦絵大判
201	司馬江漢	駿州八部富士	寛政11年頃(c.1799)	銅版画大判
5 幕末バラエティー				
202	三代豊国	広重肖像画		錦絵大判
203	歌川広重	忠臣蔵		錦絵大判
204	溪斎英泉	江戸不忍弁天ヨリ東叡山ヲ見ル図	天保1830-1844	錦絵大判
205	葛飾北斎	百物語 小はだ小平次	天保2年頃(c.1831)	錦絵中判
206	歌川豊国	こはだ小平次と女房二役		錦絵大判
207	歌川国芳	相馬の古内裏 滝夜叉姫	弘化元年-3年頃(c.1844-1846)	錦絵大判三枚続
208	歌川芳藤	五十三次之内 猫之怪		錦絵大判
209	歌川国芳	人をばかにした人だ	弘化4-嘉永5年(1847-1852)	錦絵大判
210	歌川国芳	みかけハこゝろがとんだいい人だ	弘化4年頃(c.1847)	錦絵大判
211	無款	北アメリカ副将使節真像		錦絵中判
212	無款	亜墨利加国鉄砲頭		錦絵中判
213	無款	黒船の図		錦絵大判
214	歌川芳豊	アメリカ人コドモチョウアイノ図	文久元年(1861)	錦絵大判
215	歌川芳幾	写真鏡 美人図	文久元年(1861)	錦絵大判
<資料>				
216	十返舎一九	「東海道中膝栗毛」挿絵	享和2年-文政5年(1802-1822)	

日本美術院五浦移転100年 天心と日本美術院の俊英たち

- 会期 平成18年10月21日(土)～11月26日(日)
- 主催等 主催：茨城県天心記念五浦美術館
共催：茨城新聞社
後援：財団法人 日本美術院/NHK水戸放送局
- ポスター B 2
- チラシ A 4
- 図録 280×225mm 138頁
編集・発行：茨城県天心記念五浦美術館
- 入場者数 26,754人
- 観覧料 一般600(500)円/高大生400(300)円/
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金及び入館引換券(JR東日本びゅうプラザ、緑の窓口で発売)料金。

●出品点数 69点

●内容解説

明治31年、岡倉天心は横山大観ら新進気鋭の画家たちを率いて、新たな活躍の場日本美術院を創立した。意気揚々と旗揚げした日本美術院は、急激な西洋化が進む世相を背景に、新しい時代にふさわしい日本画の創造を目指す、大観らを中心とする院のメンバーが実験的に行った新しい画法・朦朧体が世の不評を買い、院の活動は衰退の一途をたどる。この状況を打開するため、天心は明治39年、日本美術院第一部(絵画)の五浦移転を決行する。五浦の日本美術院研究所では、横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山が天心に従ってこの新天地に移り住み、日夜厳しい態度で制作に励んだ。また、天心に力量を認められた今村紫紅や安田靉彦ら若き俊英たちも五浦に招かれ、文展など中央画壇において活躍する礎を築いていく。

本展では、日本美術院が五浦に移転して100年になるのを記念し、大観、観山、春草、武山をはじめ、天心の薫陶を受けた俊英たちの意欲あふれる作品とともに、天心が五浦を訪れるきっかけを作った北茨城市出身の画家飛田周山の作品など、あわせて69点を紹介した。

●担当学芸員 稲葉睦子

●関連事業

ギャラリートーク

- 担当 稲葉 睦子(副主任学芸員)
- 日時 11月4日(土) 午後1時30分～2時30分
11月18日(土) 午後1時30分～2時30分
- 会場 企画展示室A・B・C

●関連記事

- ・天心と日本美術院の俊英たち きょう開幕、秀作69点
10月21日(土)【茨城新聞】
- ・天心らの五浦移転100年記念し展覧会
10月22日(日)【朝日新聞】
- ・企画展「天心と日本美術院の俊英たち」大観、観山らの名作紹介
10月27日(金)【常陽新聞】
- ・日本美術院五浦移転100年 天心と日本美術院の俊英たち 26日まで
11月1日(水)【週刊茨城朝日】
- ・天心門下生の作品一堂に 日本美術院移転100周年
11月5日(日)【東京新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から1 横山大観「流燈」朦朧体脱し明快な画風(副主任学芸員 稲葉睦子) 11月14日(火)【茨城新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から2 下村観山「毘沙門天弁財天」ヒオウギに優美な情趣(学芸員 澤渡麻里) 11月15日(水)【茨城新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から3 菱田春草「落葉」静寂と寂寥感描き出す(学芸員 澤渡麻里) 11月16日(木)【茨城新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から4 木村武山「阿房劫火」没線描法を駆使し表現(副主任学芸員 稲葉睦子) 11月17日(金)【茨城新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から5 今村紫紅「護花鈴」装飾的な画面構成意図(学芸員 澤渡麻里) 11月18日(土)【茨城新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から6 安田靉彦「守屋大連」自然主義的描写で表現(学芸員 澤渡麻里) 11月19日(日)【茨城新聞】
- ・天心と日本美術院の俊英たち 県天心記念五浦美術館企画展から7 飛田周山「星合いのそら」七夕行事の様子を描く(副主任学芸員 稲葉睦子)11月20日(月)【茨城新聞】



ポスターB 2



図録



チラシA 4

●関連放送

・「スクーパーレポート」

10月25日(水)【茨城放送】

・「おもしろミュージアム」 11月3日(金)【FMいわき】

●出品作品一覧

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(たて×よこ)cm	初出展覧会	所蔵先
I 日本美術院の旗揚げ							
1	小堀鞆音	恩賜の御衣	明治31年(1898)	絹本・彩色・軸装	110.8×163.5	第5回日本絵画協会第1回日本美術院連合絵画共進会	栃木県立美術館
2	寺崎広業	易水離別図	明治32年(1899)	絹本・彩色・軸装	167.7×84.9	日本美術院大阪絵画共進会	秋田市立千秋美術館
3	横山大観	寒天	明治33年(1900)	絹本・彩色・軸装	117.5×48.7	第3回絵画研究会	茨城県近代美術館
4	横山大観	阿やめ	明治34年(1901)頃	絹本・彩色・軸装	131.0×70.0		横山大観記念館
5	下村観山	大原之露	明治33年(1900)	絹本・彩色・軸装	248.0×171.0	第9回日本絵画協会第4回日本美術院連合絵画共進会	茨城県近代美術館
6	菱田春草	武蔵野秋景望富岳之図	明治31年(1898)	絹本・彩色・額装	110.0×193.0	第5回日本絵画協会第1回日本美術院連合絵画共進会	富山県立近代美術館
7	菱田春草	寒林	明治31年(1898)	紙本・墨画・屏風六曲一隻	151.7×358.4	第5回日本絵画協会第1回日本美術院連合絵画共進会	霊友会妙一記念館
8	菱田春草	常磐津 伏姫	明治33年(1900)	絹本・彩色・軸装	144.6×67.6	第8回日本絵画協会第3回日本美術院連合絵画共進会	長野県信濃美術館
9	菱田春草	羅浮仙	明治34年(1901)	絹本・彩色・軸装	124.5×69.6		長野県信濃美術館
II さまよえる日本美術院							
10	水野年方	橘逸勢女	明治35年(1902)	絹本・彩色・軸装	各84.8×141.5	第13回日本絵画協会第8回日本美術院連合絵画共進会	
11	水野年方	日野阿新	明治35年(1902)	絹本・彩色・軸装	各84.8×141.5	第13回日本絵画協会第8回日本美術院連合絵画共進会	
12	寺崎広業	月夜山水	明治35年(1902)	絹本・墨画・軸装	141.0×68.0	第12回日本絵画協会第7回日本美術院連合絵画共進会	永青文庫
13	横山大観	夕立	明治35年(1902)	絹本・彩色・軸装	116.0×50.0	第19回絵画互評会	茨城県近代美術館
14	横山大観	隠棲	明治35年(1902)	絹本・彩色・軸装	120.0×49.0	第20回絵画互評会	茨城県近代美術館
15	横山大観	松月雪景	明治37-38年(1904-05)	絹本・彩色・額装	87.5×50.0		
16	横山大観	岩礁の鶴	明治37-38年(1904-05)	絹本・彩色・額装	49.9×87.6		
17	下村観山	帰郷の図	明治37年(1904)	絹本・彩色・額装	79.7×48.9		
18	西郷孤月	月下飛鷺	明治30年代中期	絹本・彩色・軸装	123.7×48.2		長野県信濃美術館
19	西郷孤月	飛瀑	明治30年代後期	絹本・墨画彩色・軸装(双幅)	各128.6×50.0		長野県信濃美術館
20	菱田春草	霊昭女	明治35年(1902)	絹本・彩色・軸装	119.3×49.0	第16回絵画互評会	飯田市美術博物館
21	菱田春草	夜桜	明治37年(1904)	絹本・彩色・軸装	72.9×49.5		飯田市美術博物館
22	高橋広湖	神武東征図	明治37年(1904)	絹本・彩色・軸装	111.4×48.8		熊本市立熊本博物館
23	木村武山	熊野	明治35年(1902)	絹本・彩色・軸装	144.0×240.0	第12回日本絵画協会第7回日本美術院連合絵画共進会	茨城県近代美術館
24	木村武山	伊邪那岐・伊邪那美命	明治37-39年(1904-06)頃	絹本・彩色・軸装	118.3×49.2		笠間稲荷美術館
25	尾竹竹坡	花吹雪	明治期	絹本・彩色・軸装	167.8×83.5		宮城県美術館
26	小林古径	摂取	明治38年(1905)頃	絹本・彩色・軸装	114.5×70.0		福井県立美術館
III 日本美術院の五浦時代							
27	小堀鞆音	頼政詣高倉宮図	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装(双幅)	各138.3×50.2		栃木県立美術館
28	寺崎広業	湖畔の夏・寒林の月	明治40年(1907)	絹本・墨画・屏風六曲一双	各178.0×420.0		秋田市立千秋美術館
29	横山大観 菱田春草	春曙・秋夜	明治40年(1907)頃	絹本・彩色・軸装(双幅)	各114.6×49.0		長野県信濃美術館
30	横山大観	流燈	明治42年(1909)	絹本・彩色・軸装	143.1×51.5	第3回文展	茨城県近代美術館
31	横山大観	松並木	大正2年(1913)	絹本・彩色・軸装	189.0×85.0	第7回文展	霊友会妙一記念館
32	梶田半古	菊慈童	明治42年(1909)	絹本・彩色・軸装	119.2×49.0	国画玉成会研究会展覧会	高知県立美術館
33	下村観山	菊慈童	明治42年(1909)	絹本・彩色・軸装	121.8×50.6		宮城県美術館
34	下村観山	毘沙門天弁財天	明治44年(1911)	紙本・彩色・屏風六曲一双	各169.5×362.5		徳島県立近代美術館
35	川合玉堂	二日月	明治40年(1907)	絹本・墨画淡彩・軸装	86.4×139.0	東京勸業博覧会	東京国立近代美術館
36	菱田春草	松籟(岡倉天心先生五浦莊書斎小襖絵試作)	明治38年(1905)	紙本・墨画彩色・軸装	173.0×90.0		茨城県近代美術館
37	菱田春草	木の間の月	明治39年(1906)	絹本・墨画彩色・軸装	85.7×49.2		霊友会妙一記念館

No	作者名	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法(たて×よこ)cm	初出展覧会	所蔵先
38	菱田春草	曙色	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装	118.4×50.4		霊友会妙一記念館
39	菱田春草	落葉	明治42年(1909)	絹本・彩色・屏風 二曲一双	各152.8×151.8		茨城県近代美術館
40	菱田春草	鹿	明治42年(1909)	絹本・彩色・軸装	128.0×51.0		豊田市美術館
41	菱田春草	春秋	明治43年(1910)	絹本・彩色・軸装 (双幅)	各144.5×71.7		飯田市美術博物館
42	高橋広湖	賢女賞月之図	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装	144.0×70.3		熊本県立美術館
43	高橋広湖	鍾馗捉鬼図	明治期	絹本・彩色・軸装 (双幅)	各108.0×41.5		熊本県立美術館
44	木村武山	阿房劫火	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装	141.0×240.8	第1回文展	茨城県近代美術館
45	木村武山	鳥甘橘・蔦に山鳩	明治45年(1912)頃	絹本・彩色・屏風 二曲一双	各164.0× 164.0		笠岡稲荷美術館
46	飛田周山	星合いのそら	大正4年(1915)	紙本・彩色・屏風 四曲一隻	172.5×355.6	第9回文展	
47	飛田周山	風神雷神	大正5年(1916)	紙本・彩色・軸装 (双幅)	各87.0(径)	第1回美術研精会総合個人展	
48	飛田周山	幽居の秋	大正6年(1917)	絹本・彩色・屏風 六曲一双	各169.2×372.5	第11回文展	
49	尾竹竹坡	おとづれ	明治43年(1910)	紙本・彩色・屏風 六曲一双	各155.0×358.6	第4回文展	東京国立近代美術館
50	今村紫紅	秋風五丈原	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装	165.0×112.4	巽画会第8回展	豊田市美術館
51	今村紫紅	伊達政宗	明治43年(1910)	絹本・彩色・軸装	120.5×71.0	第12回紅児会	横浜美術館(原範行・ 會津子氏寄贈)
52	今村紫紅	護花鈴	明治44年(1911)	絹本・彩色・屏風 六曲一双	各170.2×364.4	第5回文展	霊友会妙一記念館
53	今村紫紅	道成寺	明治期・大正5年	紙本・彩色・軸装	59.2×49.2		国立大学法人茨城大学
54	今村紫紅	つたの細道	大正2年(1913)	絹本・彩色・軸装	126.0×41.3		横浜美術館
55	小林古径	神崎の窟	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装	180.0×109.0	東京勸業博覧会	佐野市立吉澤記念美 術館
56	小林古径	緑	明治41年(1908)	絹本・彩色・軸装	152.3×70.8	第12回紅児会	茨城県近代美術館
57	安田鞞彦	醍醐観花	明治40年(1907)	絹本・彩色・軸装	109.9×41.1		伊豆市
58	安田鞞彦	守屋大連	明治41年(1908)	絹本・彩色・軸装	150.5×57.2	国画玉成会展覧会	愛媛県美術館
59	安田鞞彦	達磨	明治44年(1911)頃	絹本・彩色・軸装	112.5×42.3	第14回紅児会	伊豆市
60	安田鞞彦	上宮太子	明治45年(1912)頃	絹本・彩色・軸装	126.9×51.1	東京大正博覧会特設巽画会展	伊豆市
61	前田青邨	市場	明治43年(1910)頃	絹本・彩色・軸装	132.2×49.6	第11回紅児会	伊豆市
62	前田青邨	燈籠大臣	明治末期	絹本・彩色・軸装	165.7×86.0		伊豆市
Ⅳ 日本美術院の再興							
63	横山大観	暁色	大正5年(1916)頃	絹本・墨画彩色・ 屏風二曲一双	各168.8×167.1		坂東市立猿島資料館
64	下村観山	寿星	大正4年(1915)頃	絹本・彩色・屏風 六曲一双	各168.0×370.2		福井県立美術館
65	木村武山	小春	大正3年(1914)	絹本・彩色・屏風 六曲一双	各171.2×375.0	再興第1回院展	国立大学法人茨城大学
66	木村武山	不動	大正5年(1916)	絹本・彩色・軸装	176.0×84.0	再興第3回院展	笠岡稲荷美術館
67	小林古径	柳桜	大正4年(1915)頃	絹本・彩色・軸装 (双幅)	各143.6×49.9		五島美術館
68	安田鞞彦	御産の褥	大正3年(1914)	絹本・彩色・軸装	202.7×85.4	再興第1回院展	東京国立博物館
69	安田鞞彦	忠度訪俊成	大正5年(1916)頃	絹本・彩色・軸装	127.4×42.7		伊豆市

春を告げる花—椿絵名作展

- 会期 平成19年1月2日(火)～2月12日(月・祝)
- 主催等 主 催：茨城県天心記念五浦美術館
特別協力：あいおい損害保険株式会社
- ポスター B 2 ●チラシ A 4
- 図録 290×225mm 122頁
監修：細野雅信
編集・発行：茨城県天心記念五浦美術館
- 入場者数 26,669人
- 観覧料 一般600(500)円／高大生400(300)円／
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金及び入館引換券(JR東日本びゅうプラザ、緑の窓口で発売)料金。
- 出品点数 98点
- 内容解説
古くから日本人になじみ深い花木、椿を主題にした作品を集めた展覧会を開催した。
これまで長く椿を扱った作品を収集してきたあいおい損害保険株式会社の協力により、本展では、江戸時代の琳派の代表作家、尾形光琳、乾山などの絵画、工芸から横山大観、奥村土牛、前田青邨など、近現代の優れた作家による椿を描いた名品96点と、茨城県近代美術館で所蔵されている2点の椿作品により、変化に富む椿の花の美しさと、各作家たちによる、個性的な表現の魅力を堪能いただいた。
会場では、日本人と椿のかかわりをまとめた略年表や、万葉集に歌われた椿関連の和歌の解説も行い、また、江戸時代から宮中に伝わり618品種の椿の図を収めた『椿花図譜』の復刻版なども展示し、椿に関して多角的な興味を持ってもらえるようにした。
さらに、日本ツバキ協会の協力により、様々な種類の椿の盆栽をロビーに展示し、正面玄関には、北茨城華道協会の協力により、椿を用いた生花の展示もし、美術館全体で椿展の雰囲気を盛り上げた。
- 担当学芸員 小泉淳一

●関連事業

ギャラリートーク

担当 小泉 淳一 (首席学芸員)

日時 1月14日(日) 午後1時30分～2時30分
1月28日(日) 午後1時30分～2時30分

会場 展示室A・B・C

日本画体験実技講座

「椿を描こう—箔を使って—」

講師 谷中武彦 (日本画家)

日時 2月3日(土)・4日(日)

各日午前10時～午後4時

会場 講座室

●関連記事

- ・ツバキの名作98点 五浦美術館 2日から企画展
平成18年12月26日(火)【産経新聞】
- ・椿絵の魅力を紹介2日から「名作展」開催
平成18年12月31日(日)【常陽新聞】
- ・春を告げる花 椿絵名作展 桃山から現代までの作品を紹介
平成19年1月1日(月)【夕刊いわき民報】
- ・吐玉泉「春を告げる花 椿絵名作展」
平成19年1月3日(水)【茨城新聞】
- ・春告げる絵画、工芸 五浦美術館で椿絵名作展 近世から近・現代の98点
平成19年1月8日(月)【茨城新聞】
- ・「春を告げる花—椿絵名作展」を開催 所蔵品公開
平成19年1月15日(月)【保険毎日新聞】
- ・狩野山楽(伝)「椿梅図」 伝統画題アレンジ [椿絵名作展から1]
平成19年1月17日(水)【茨城新聞】
- ・牧 進「雪色」浮き立つ「白」鮮明 [椿絵名作展から2]
平成19年1月18日(木)【茨城新聞】
- ・村上華岳「椿花図」 渋みある赤の色調 [椿絵名作展から3]
平成19年1月19日(金)【茨城新聞】
- ・「椿」テーマの名作展 有名70作家の98点
平成19年1月19日(金)【茨城新聞】
- ・熊谷守一の椿の絵を見て [あっちの窓から見てごらん46]
平成19年2月24日(土)【常陽新聞】
- ・伝 狩野山楽「椿梅図」 [県天心記念五浦美術館企画展より]
平成19年 N0.45【北茨城市議会だより】
- 関連放送
- ・「スクーパーレポート」 1月16日(水)【茨城放送】
- ・「おもしろミュージアム」 1月18日(金)【FMいわき】
- ・「こんにちはわいわいスタジオ美術館特報」
1月5日(金)【NHKデジタル】



ポスター B 2



図 録



チラシ A 4

● 出品作品一覧

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	西暦	材質・技法・形状	寸法(たて×よこ)cm
古画にみる椿							
1	狩野山楽 (伝)	1559-1635	椿梅図	桃山時代		紙本・彩色・屏風二曲一隻	158×166.5
2	松花堂昭乗	1584-1639	石臺椿之図	桃山時代		紙本・彩色・軸装	30.6×29.6
3	尾形光琳	1658-1716	紅椿図	江戸時代		紙本・彩色・団扇・額装	23.7×23.3
4	酒井抱一	1761-1828	葎椿鶯図	江戸時代		紙本・彩色・扇子・額装	15.5×44.5
5	松村景文	1779-1843	沙羅椿と雀図	江戸時代		紙本・彩色・軸装	126.8×38.2
6	鈴木其一	1796-1858	梅椿図	江戸時代		紙本・彩色・額装	94.5×29.0
雪に咲く花							
7	横山大観	1868-1958	雪旦	大正15年	1926	絹本・彩色・軸装	143.6×38.2
8	金島桂華	1892-1974	雪中椿	昭和10年頃	c.1935	絹本・彩色・軸装	126.5×27.5
9	山口華楊	1899-1984	寒椿	昭和50年頃	c.1975	紙本・彩色・額装	38.4×46.0
10	牧進	1936-	雪色	不詳		紙本・彩色・額装	65.2×91.0
11	椿貞雄	1896-1957	雪椿(春雪)	昭和17年	1942	油彩・麻布・額装	70.3×90.6
椿と鳥と							
12	川合玉堂	1873-1957	椿花小禽図	大正元年	1912	絹本・彩色・軸装	110.3×39.9
13	松林桂月	1876-1963	八哥鳥	昭和21-25年	1946-50	絹本・彩色・軸装	47.1×57.8
14	富田溪仙	1879-1936	園中春暖図	昭和8年	1933	絹本・彩色・軸装	129.1×35.8
15	堂本印象	1891-1975	春花・春鳥	不詳		絹本・彩色・軸装	43.0×51.0
16	竹山博	1923-1994	紅白椿	不詳		紙本・彩色・額装	40.5×53.0
17	川島睦郎	1940-	椿	不詳		紙本・彩色・額装	46.0×61.0
18	松村公嗣	1948-	春	昭和61年	1986	紙本・彩色・額装	73.0×53.4
19	後藤順一	1948-	貴椿	昭和61年	1986	紙本・彩色・額装	52.5×72.5
自然の情趣							
20	安田鞞彦	1884-1978	紅白椿	不詳(昭和)		絹本・彩色・額装	40.5×32.0
21	村上華岳	1888-1939	椿図	不詳		絹本・彩色・軸装	26.5×24.0
22	村上華岳	1888-1939	椿花図	大正13年頃	c.1924	絹本・彩色・額装	40.9×51.7
23	村上華岳	1888-1939	紅椿	不詳		絹本・彩色・軸装	32.2×42.0
24	奥村土牛	1889-1990	椿花	昭和57-58年頃	1982-83	紙本・彩色・額装	40.8×30.8
25	奥村土牛	1889-1990	紅椿	昭和30年頃	c.1955	絹本・彩色・額装	58.0×73.0
26	奥村土牛	1889-1990	椿	不詳(昭和)		紙本・彩色・軸装	26.6×35.4
27	福田平八郎	1892-1974	八重椿	不詳		紙本・彩色・額装	31.0×48.0
28	山口蓬春	1893-1971	都波喜	昭和30年頃	c.1955	紙本・彩色・額装	50.0×38.4
29	徳岡神泉	1896-1972	紅椿	不詳		紙本・彩色・額装	32.0×45.8
30	上村松篁	1902-2001	椿	昭和32年	1957	絹本・彩色・軸装	43.5×51.0
31	橋本明治	1904-1991	椿(浅春)	昭和29-30年	1954-55	紙本・彩色・軸装	50.5×58.3
32	大山忠作	1922-	椿	昭和35年	1960	紙本・彩色・額装	53.2×73.2
33	小泉淳作	1924-	椿	昭和61年	1986	紙本・彩色・額装	57.8×33.6
34	牧進	1936-	春情	不詳		紙本・彩色・額装	53.0×65.0
35	青山巨幹	1945-	大虬	不詳		絹本・彩色・軸装	64.0×79.0
36	大野俊明	1948-	曙	不詳		紙本・彩色・額装	53.0×72.0
37	梅原幸雄	1950-	椿	不詳		絹本・彩色・額装	63.2×52.5
38	熊谷守一	1880-1877	春の日	昭和41年	1966	油彩・板・額装	15.6×22.5
39	香月泰男	1911-1974	白椿	昭和46年	1971	油彩・麻布・額装	41.0×24.5
40	香月泰男	1911-1974	椿花	昭和46年	1971	油彩・麻布・額装	26.5×21.0
意匠の椿							
41	尾形光琳	1658-1716	椿図時絵硯箱	江戸時代		漆器	10.3×23.0×25.03
42	尾形乾山	1663-1743	鏤絵椿図角皿	江戸時代		陶器	2.5×22.0×22.0
43	尾形乾山	1663-1743	色絵椿文輪花向付	江戸時代		陶器(五客)	各7.2×径10.3
44	尾形乾山	1663-1743	色絵椿文輪花向付	江戸時代		陶器(五客)	各5.5×16.3×16.3
45	北大路魯山人	1883-1959	色絵椿文鉢	昭和10年代	1935-44	陶器	21.0×径25.4
46	古川隆久	1940-	椿文壺	不詳		陶器	25.4×高さ21

No	作者名	生没年	作品名	制作年	西暦	材質・技法・形状	寸法(たて×よこ)cm
47	竹久夢二	1884-1934	舞妓	不詳(大正)		絹本・彩色・額装	124.3×42.0
48	小茂田青樹	1891-1933	春苑	昭和8年	1933	紙本・彩色・額装(扇面)	17.0×54.0
49	中川一政	1893-1991	椿	昭和45-50年頃	c.1970-75	紙本・彩色・額装(扇面)	23.0×52.0
50	梅原龍三郎	1888-1986	唐美人椿	昭和31年	1956	油彩・麻布・額装(扇面)	17.0×59.4

卓上の花

51	富田溪仙	1879-1936	春の花籠図	昭和5-6年	1930-31	絹本・彩色・額装	45.4×57.5
52	小林古径	1883-1957	椿	昭和26年	1951	紙本・彩色・額装	65.0×45.5
53	安田鞞彦	1884-1978	椿寿瓶	昭和39年	1964	紙本・彩色・額装	45.6×38.0
54	前田青邨	1885-1977	椿	不詳		紙本・彩色・額装	37.4×48.8
55	前田青邨	1885-1977	椿	昭和39年	1964	紙本・彩色・額装	71.8×87.0
56	堅山南風	1887-1980	オランダ染付 壺の椿	昭和30年頃	c.1955	紙本・彩色・額装	63.0×45.3
57	堅山南風	1887-1980	古代壺の花	昭和48年	1973	紙本・彩色・額装	66.7×56.9
58	山本倉丘	1893-1993	瓶花	不詳		紙本・彩色・額装	40.8×27.0
59	小倉遊亀	1895-2000	椿	昭和48-50年頃	1973-75	紙本・彩色・額装	43.4×60.3
60	小倉遊亀	1895-2000	古九谷徳利と白椿	昭和61年	1986	紙本・彩色・額装	50.4×42.4
61	小倉遊亀	1895-2000	椿	不詳		紙本・彩色・額装	46.4×38.4
62	高山辰雄	1912-	椿	昭和56年頃	c.1981	絹本・彩色・額装	31.0×41.0
63	高山辰雄	1912-	椿	不詳		絹本・彩色・額装	65.0×49.0
64	堀文子	1918-	椿之図	昭和57年	1982	紙本・彩色・額装	66.0×50.6
65	堀文子	1918-	繚乱	昭和57年頃	c.1982	紙本・彩色・額装	73.0×90.2
66	堀文子	1918-	春の籠	昭和60年	1985	紙本・彩色・額装	45.5×53.5
67	堀文子	1918-	春の籠	昭和63年	1988	紙本・彩色・額装	53.5×45.5
68	松尾敏男	1926-	瓶花	昭和61年	1986	紙本・彩色・額装	65.0×50.0
69	穂月明	1929-	籠の白椿	昭和61年	1986	紙本・墨画・額装	62.5×52.0
70	岡信孝	1932-	椿花籠	昭和59年	1984	紙本・彩色・額装	53.3×73.0
71	大矢紀	1936-	万葉花	昭和61年	1986	紙本・彩色・額装	72.8×53.2
72	石踊絃一	1941-	椿花	不詳		紙本・彩色・額装	45.5×45.5
73	吉井東人	1942-	椿	不詳		紙本・彩色・額装	63.0×47.9
74	吉井東人	1942-	椿	不詳		紙本・彩色・額装	46.0×53.0
75	中島千波	1945-	酒中花	不詳		紙本・彩色・額装	48.0×30.0
76	満谷国四郎	1874-1936	椿	不詳		油彩・板・額装	37.9×45.4
77	岸田劉生	1891-1929	籠椿	大正13年	1924	油彩・麻布・額装	26.6×45.0
78	児島善三郎	1893-1962	支那壺の椿	不詳		油彩・麻布・額装	41.0×32.0
79	中川一政	1893-1991	椿	昭和35年	1960	油彩・麻布・額装	53.0×45.6
80	中川一政	1893-1991	椿	昭和37年	1962	絹本・彩色・額装	57.2×42.2
81	椿貞雄	1896-1957	椿花	昭和23年	1948	油彩・麻布・額装	33.0×52.8
82	椿貞雄	1896-1957	白磁壺と椿	昭和23-24年	1948-49	油彩・麻布・額装	27.2×40.9
83	鳥海青児	1902-1972	椿	不詳		油彩・麻布・額装	41.0×32.0
84	鳥海青児	1902-1972	野椿古瀬戸徳利	昭和35年頃	c.1960	油彩・麻布・額装	45.0×37.8
85	糸園和二郎	1911-2001	椿(花三輪)	不詳		油彩・麻布・額装	27.2×22.0
86	糸園和二郎	1911-2001	椿(花一輪)	昭和62年	1987	油彩・麻布・額装	33.4×24.0
87	五味梯四郎	1918-2004	紅白椿(古フランス壺)	不詳		油彩・麻布・額装	65.0×49.8
88	福井良之助	1923-1986	椿	昭和59年	1984	油彩・麻布・額装	60.6×72.4
89	岩戸敏彦	1947-2007	椿	不詳		油彩・麻布・額装	46.0×38.0
90	黒田悦子	1949-	春華	不詳		油彩・麻布・額装	53.0×41.0
91	斎藤清	1907-1997	椿	不詳		コラグラフ・紙・額装	74.4×45.5

椿幻想

92	加藤東一	1916-1996	春を告げる花	不詳		紙本・彩色・額装	32.0×41.0
93	牧進	1936-	眠れる美女	昭和63年	1988	紙本・彩色・額装	133.0×165.0
94	牧進	1936-	初霞	不詳		紙本・彩色・額装	175.5×171.5
95	久保嶺爾	1940-	春の岬	昭和54年	1979	紙本・彩色・額装	33.0×53.0
96	林功	1946-2000	静光(日に椿)	不詳		紙本・彩色・屏風六曲一隻	157.0×360.0

茨城県近代美術館所蔵の椿作品

97	永田 春水	1889-1960	春光煦々	大正15年	1926	絹本・彩色・額装	239.0×140.0
98	須田 国太郎	1889-1960	椿	昭和15年頃	c.1940	油彩・麻布・額装	50.0×61.0

再興第91回院展 茨城五浦展 —天心、大観の精神を受け継ぐ画家たち—

- 会期 平成19年3月8日(木)～3月25日(日)
- 主催 茨城県天心記念五浦美術館
財団法人日本美術院
- ポスター B 2
- チラシ A 4
- 図録 240×250mm 120頁
編集：財団法人日本美術院
発行：財団法人日本美術院
- 入場者数 9,675人
- 観覧料 一般500(400)円／高大生300(250)円／
小中生200(150)円
※()内は20名以上の団体料金及び入館引換券(JR東日
本びゅうプラザ、緑の窓口で発売)料金。
- 出品点数 68点
- 内容解説
明治31年(1898)、岡倉天心を中心として創立された日本
美術院は、近代日本画壇の一翼を担ってきた美術団体であ

る。明治39年(1906)、第一部(絵画)は東京谷中から茨城県五浦に移り、画家たちは新しい日本画の創造に邁進した。天心没後の大正3年(1914)、その精神を受け継いだ横山大観、下村観山らによって日本美術院が再興されて以来、数多くの優れた画家たちを輩出してきた。今日では、平山郁夫、福王寺法林、郷倉和子らの同人をはじめ、中堅、新進作家が意欲的な作品を発表している。本展では、再興第91回院展に出品された同人、招待等の作品をはじめ、日本美術院賞、奨励賞、さらに第12回天心記念茨城賞の受賞作品や、茨城県ゆかりの画家の入選作品など、68点を紹介した。

- 担当 三代博紀(主任学芸主事)
- 関連記事
 - ・天心、大観の精神受継ぐ 2月24日(土)【両毛新聞】
 - ・天心、大観ゆかりの地で 3月8日(木)【茨城新聞】
 - ・同人入選作など68点紹介 3月9日(金)【常陽新聞】
 - ・再興第91回院展茨城五浦展3月16日(金)【日本経済新聞】
 - ・県内初公開の68点 3月25日(日)【読売新聞】
- 関連放送
 - ・「スクーパーレポート」 3月8日(木)【茨城放送】
 - ・「おもしろミュージアム」 3月9日(金)【FMいわき】
 - ・「みんなの教育」 3月10日(土)【茨城放送】



ポスターB 2



図録



チラシA 4

●出品作品一覧

No.	作者名	作品名	受賞	枠寸法(たて×よこ)cm
同人(同人推挙順)				
1	福王寺 法林	ヒマラヤの月		119.5×167.5
2	郷倉 和子	水辺の春光		141.0×249.0
3	平山 郁夫	神峰黄山雲海図		198.3×755.0
4	松尾 敏男	シェフの肖像		224.8×161.2
5	後藤 純男	秋映大和		212.0×390.0
6	下田 義寛	燿		189.2×326.4
7	小山 硬	宣教師フロイス一行と信長		179.0×463.0
8	鎌倉 秀雄	この実に裕美		179.4×244.5
9	福井 爽人	サン・マリーへの道		218.2×243.3
10	伊藤 彰耳	秋田・彩・玉川		185.0×500.0
11	松本 哲男	文明アメリカ ユカタン		245.0×606.0

No.	作者名	作品名	受賞	枠付寸法(たて×よこ)cm
12	田淵 俊夫	夕想		177.0×368.0
13	那波多目 功一	昇陽(ディアナ神殿)		200.0×245.2
14	手塚 雄二	迦羅須 <small>からす</small>		175.0×364.5
15	福王寺 一彦	上弦の月(三)		249.0×492.0
16	梅原 幸雄	祈りの道		221.0×370.0
17	清水 達三	翠響		200.0×358.5
18	宮廻 正明	午後の揺曳		204.0×269.0
19	菊川 三織子	ユーカラの里		213.5×181.5
20	西田 俊英	吉備の鶴・誕生(左)鳴き合い(右)	足立美術館賞	179.0×777.0
21	小谷津 雅美	桜韻	内閣総理大臣賞	176.3×244.3
22	松村 公嗣	惜春		177.0×364.5
23	大矢 紀	風響		202.0×282.0
24	高橋 秀年	観音光		230.0×282.0
25	川瀬 磨士	八甲田	文部科学大臣賞	227.0×300.0
26	吉村 誠司	昇陽		210.4×230.3
27	村上 裕二	天々		231.8×197.0
28	大野 百樹	白梅		192.0×384.5
29	今井 珠泉	光耀		245.5×195.5
30	倉島 重友	風渡る		189.0×241.5
31	清水 由朗	貿易風		207.0×256.5

・入選作(招待・無鑑査を含む)(五十音順)

32	荒木 みどりこ	木の葉舞い散る	奨励賞	180.0×225.0
33	井坂 洋一	降る		220.0×154.0
34	石村 雅幸	精魄 <small>せいぼく</small>	奨励賞	180.0×225.0
35	井手 康人	奏園	奨励賞 天心記念茨城賞	225.0×180.0
36	大坪 由明	富士登山		225.0×180.0
37	大野 逸男	流れ		215.0×170.0
38	大矢 十四彦	黎明	奨励賞	225.0×180.0
39	岡田 眞治	朝光		220.0×180.0
40	小田野 尚之	あいさつ		180.0×225.0
41	鬼塚 堅太	とみちゃんの森		225.0×180.0
42	角島 直樹	彼岸の刻	奨励賞	225.0×180.0
43	岸野 香	親友	奨励賞	180.0×225.0
44	北田 克己	明けゆく		225.0×180.0
45	國司 華子	徒然 <small>とぜん</small> タル欠片 <small>かけら</small>	奨励賞	180.0×225.0
46	斎藤 彰男	漂う		180.0×225.0
47	斎藤 博康	滯 <small>しん</small>		170.0×210.0
48	斎藤 満栄	ドーム		225.0×180.0
49	篠崎 美保子	木もれ日の庭	奨励賞	180.0×225.0
50	鈴木 至夫	奥能登冬涛	奨励賞	180.0×225.0
51	谷 善徳	戻 <small>しよく</small>	奨励賞	180.0×225.0
52	辻 紀子	樹根		210.0×180.0
53	仲 裕行	夢の軌跡		180.0×225.0
54	中村 英生	トタンの家		170.0×215.0
55	中村 譲	浮棧橋	日本美術院賞	180.0×225.0
56	番場 三雄	越えて	奨励賞	225.0×180.0
57	福田 喜美子	いつもの場所		160.0×225.0
58	堀川 達三郎	夕韻	奨励賞	180.0×225.0
59	前原 満夫	冬枯れの中で	日本美術院賞	180.0×225.0
60	榊田 隆一	冬の蓮池		225.0×180.0
61	宮北 千織	半夏生		180.0×225.0
62	村岡 貴美男	風の塔	奨励賞	180.0×225.0
63	谷中 武彦	氷花		225.0×180.0
64	山田 伸	座	奨励賞	225.0×180.0
65	山本 浩之	ひとり		225.0×180.0
66	吉澤 照子	残照		170.0×202.0
67	吉村 佳洋	階段	奨励賞	180.0×225.0
68	藁谷 実	夜想詩	奨励賞	225.0×180.0

2 所蔵品展

●概要

茨城県近代美術館所蔵作品から日本画を中心に、その都度テーマを設けて選び出し、展示室Aで年4回展示し、公開した。

●主催 茨城県天心記念五浦美術館

●会期及びテーマ

No	会 期	テ ー マ	
	2/24(金)ー4/23(日)	所蔵品展 再興日本美術院の画家たち	7,697
1	6/9(金)ー7/17(月・祝)	第1回所蔵品展 暮らしの情景ー昭和回想ー	15,823
2	9/1(金)ー10/15(日)	第2回所蔵品展 日本美術院と茨城の画家たち	19,417
	9/14(木)ー10/15(日)	特別展示 木村武山 須磨御殿彩色杉戸絵	
3	12/1(金)ー12/24(日)	第3回所蔵品展 四季の情景ー冬ー	11,616
4	2/17(土)ー3/4(日):前期	第4回所蔵品展 戦後日本画へのいざない	7,706
	3/29(土)ー4/22(日):後期		1,676
合 計			63,935

●観覧料 一般180(140)円/高大生110(80)円/小中生80(50)円

※()内は20名以上の団体料金

※長期休業期間を除く土曜日は高校生以下無料

●入館者数 63,935人

※所蔵品展「再興日本美術院の画家たち」は4月1日からの入館者数である。

※第4回所蔵品展は3月31日までの入館者数である。

●所蔵品展チラシ



第1回所蔵品展 暮らしの情景ー昭和回想ー 平成18年6月9日(金)～7月17日(月・祝)

戦後、日本人の生活は、科学技術の発達と、それにとまなうたくさんの新商品によって大きく変わり、ちょっと以前の暮らしぶりできえ、次々に忘れ去られてゆけばかりである。今回、所蔵品の中から、昭和の時代に活躍した様々な作家の同時代風俗画等を紹介して、今ではもう、懐かしさを感じさせる昭和を回想してみた。

●出品目録

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
〈日本画〉							
1	小川 芋銭	1868-1938	若葉と水蒸気	昭和7年頃	絹本・淡彩・軸装	40.0×51.5	
2	小川 芋銭		春日遅々(魚鳥と童子)	昭和9年	紙本・淡彩・軸装	48.5×68.3	
3	小川 芋銭		江村六月, 雲巒烟水	昭和10年	絹本・淡彩・屏風六曲一双	各157.5×333.0	篠目龍三氏寄贈
4	小川 芋銭		涼気流	昭和12年	紙本・淡彩・軸装	45.8×65.3	
5	鑄木 清方	1878-1972	汐路のゆきかい	昭和34年	絹本・彩色・額装	57.5×62.6	
6	門井 掬水	1886-1976	夕浜	昭和15年	絹本・彩色・額装	185.0×226.0	
7	門井 掬水		念仏講	不詳	絹本・彩色・軸装	214.0×171.0	
8	保尊 良朔	1896-1953	壁仏	昭和13年	紙本・彩色・屏風二曲一双	各172.0×198.0	山崎敬子氏寄贈
9	時田 直普	1907-2000	早苗船	昭和23年	紙本・彩色・屏風二曲一双	180.4×185.5	時田幸彦氏寄贈
10	杉山 寧	1909-1993	秋意	昭和12年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	218.0×302.0	
11	浦田 正夫	1910-1997	砂丘	昭和46年	紙本・彩色・額装	175.0×169.0	作者寄贈
12	森田 曠平	1916-1994	八丈のめならべ達	昭和34年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	175.9×305.7	森田貞子氏寄贈
〈油彩画〉							
13	熊岡 美彦	1889-1944	山の娘	昭和16年	油彩・麻布	116.7×91.0	長谷川仁氏寄贈
14	福田義之助	1890-1959	水郷土浦駅頭	昭和29年	油彩・麻布	97.2×130.5	寄託
15	柴田三千春	1911-1968	遠足にて	昭和22年	油彩・麻布	89.0×114.0	作者寄贈
16	松本 竣介	1912-1948	霞ヶ関風景・鉄橋近く	昭和18年	鉛筆・墨・紙	32.7×58.0	
17	塚 豊二	1913-1943	草上二童	昭和14年	油彩・麻布	115.0×89.5	遺族寄贈
18	堀越 隆次	1916-1984	家族(A)	昭和27年	油彩・麻布	162.0×130.0	堀越吟子氏寄贈
19	小又 光	1919-1978	追羽子	昭和22年	油彩・麻布	117.0×90.0	作者寄贈
〈版画〉							
20	前川 千帆	1888-1960	新東京百景一品川八ツ山	昭和4年	木版・紙	18.0×24.5	
21	前川 千帆		新東京百景一西の市	昭和4年	木版・紙	18.0×24.5	
22	前川 千帆		新東京百景一渋谷百軒店	昭和4年	木版・紙	24.5×18.0	
23	前川 千帆		新東京百景一深川木場	昭和5年	木版・紙	18.0×24.5	
24	前川 千帆		新東京百景一神田青物市場	昭和5年	木版・紙	18.0×24.5	
25	前川 千帆		新東京百景一台場水上公園	昭和5年	木版・紙	18.0×24.5	
26	前川 千帆		新東京百景一明治座	昭和5年	木版・紙	24.5×18.0	
27	前川 千帆		新東京百景一地下鉄	昭和6年	木版・紙	18.0×24.5	
28	前川 千帆		新東京百景一ミニシアゴルフ	昭和6年	木版・紙	18.0×24.5	
29	前川 千帆		新東京百景一五反田駅	昭和7年	木版・紙	18.0×24.5	

第2回所蔵品展 日本美術院と茨城の画家たち 平成18年9月1日(金)～10月15日(日)

日本美術院と茨城は、深い縁がある。特に明治39年の日本美術院の五浦移転において、日本画の革新を目指す天心のもとに集結した横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山が五浦の地で切磋琢磨したことは、後進の画家たちの精神的な励みとなり、本県のその後の美術界の発展にもつながっている。

本展では、大観、観山、春草、武山ら五浦の画家たちをはじめ、松本楓湖、小川芋銭、那波多目功一など、茨城にゆかりのある院展の画家の作品23点を紹介した。

●出品目録

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
1	松本 楓湖	1840-1923	海上朝陽, 松竹梅	大正4年	絹本・彩色・軸装(3幅対)	各116.7×35.0	大澤彌太郎氏寄贈
2	松本 楓湖		養老の滝	大正初期	絹本・彩色・軸装	111.5×40.3	大澤彌太郎氏寄贈
3	松本 楓湖		素盞鳴尊	大正初期	絹本・彩色・軸装	111.5×41.2	大澤彌太郎氏寄贈
4	小川 芋銭	1868-1938	河童百図<因指見月>	昭和12年	紙本・墨画・軸装	30.0×33.9	
5	小川 芋銭		河童百図<カッパ虫>	昭和12年	紙本・淡彩・軸装	33.9×64.0	
6	小川 芋銭		河童百図<かっぱのまぼろし>	昭和12年	紙本・墨画・軸装	55.3×68.0	
7	横山 大観	1868-1958	紫山返照	昭和10年	紙本・墨画彩色・額装	76.0×115.0	
8	横山 大観		月満山	昭和12年	紙本・墨画・軸装	65.0×99.0	
9	横山 大観		蓬萊山	昭和21年頃	絹本・彩色・軸装	50.0×58.0	結城四郎氏寄贈

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
11	菱田 春草	1874-1911	林和靖	明治期	絹本・彩色・軸装	50.5×40.5	寄託
12	木村 武山	1876-1942	英姿	昭和10年	絹本・彩色・軸装	195.5×104.5	
13	飛田 周山	1877-1945	森漫	昭和10年	絹本・彩色・額装	92.0×114.0	
14	児玉 素光	1890-1966	常陸五浦真景図	昭和14年頃	紙本・墨画・卷子	66.0×460.0	竹内清次氏寄贈
15	清原 齊	1896-1956	宵	昭和30年	紙本・彩色・額装	230.3×194.5	
16	酒井 三良	1897-1969	海	昭和27年	紙本・墨画・額装	93.0×123.0	伊藤興太郎氏寄贈
17	羽石 光志	1903-1988	宇治川	昭和39年	紙本・彩色・額装	200.2×242.4	寄託
18	那波多目煌星	1905-1989	化身	昭和50年	紙本・彩色・額装	222.0×162.0	作者寄贈
19	高崎 興	1908-1985	浄心	昭和58年	紙本・彩色・額装	227.0×182.0	高崎興一氏寄贈
20	田中 嘉三	1909-1967	仏弟子	昭和38年	紙本・彩色・額装	180.0×226.0	
21	那波多目功一	1933-	廃園	昭和58年	紙本・彩色・額装	160.0×112.0	
22	倉島 重友	1944-	川風	平成13年	紙本・彩色・額装	215.0×170.0	第7回天心記念茨城賞
23	下村観山・小川芋銭・ 飛田周三・木村武山・ 松本楓湖・横山大観		飯村丈三郎古希記念画冊	大正11年	絹本・彩色・画冊(6図)	各36.3×26.1	

特別展示 木村武山 須磨御殿彩色杉戸絵 平成18年9月14日(木)～10月15日(日)

須磨御殿彩色杉戸絵は、茨城県行方市出身の実業家内田信也(1880～1971)が大正8年頃に兵庫県神戸市須磨に建てた邸宅にあったものである。この杉戸絵は、横山大観らと共に日本美術院の中心として活躍した木村武山(1876～1942)によって、画家自身最も脂が乗った時期(大正7年頃)に描かれた。

須磨御殿の建物は平成7年の阪神淡路大震災の際、多大な被害を受けたが、杉戸絵は幸いにも損傷を免れ、所有者のご理解により、武山の郷里茨城での公開が相応しいと、平成13年本県に寄託された。本展では、豪華な杉の一枚板に描かれた彩色杉戸絵25枚を紹介した。本展は、まなびピアいばらき2006協賛事業として実施した。

●出品目録

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
24	木村 武山	1876-1942	須磨御殿彩色杉戸絵	大正7年頃	杉戸44面・彩色		寄託
25	木村 武山		光明皇后図(下絵)	昭和11年頃	紙本・墨画・パネル装	246.5×766.3	木村明正氏寄贈

第3回所蔵品展 四季の情景－冬－ 平成18年12月1日(金)～12月24日(月)

冬は、夏のにぎわいから彩り鮮やかな秋を経て、やがて訪れる春を待つ一年のうちで最も静かな季節である。多くの生き物たちが新たな生命の営みにそなえて休息に入り、景色は多くの色を失い、寂寞感は深まりゆく。

私たち日本人は、わが国特有の自然風土に培われた季節の移ろいを慈しみ、四季折々の美しさを古来「雪・月・花」ということばで表してきた。絵画においても、雪は冬の情景に欠かせない題材のひとつである。現代では、冬の情景が画家自身の思いを重ね合わせた心象風景として描かれることもあり、その表現も様々である。

本展では、横山大観、小川芋銭、酒井三良、小林巢居人、黒田清輝、小堀進ら近・現代の画家たちが描いた冬の情景にちなんだ作品30点を紹介した。

●出品目録

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
〈日本画〉							
1	奥原 晴湖	1837-1913	枯木寒鴉	明治43年	絹本・淡彩・軸装	123.7×40.9	
2	松本 楓湖	1840-1923	雪中武者	不詳	絹本・彩色・軸装	125.6×54.0	宮崎慶一郎氏寄贈
3	小川 芋銭	1868-1938	雪女	大正末期	絹本・淡彩・軸装	127.0×42.0	
4	小川 芋銭		雪姥と黒狐	昭和2年	絹本・彩色・軸装	102.0×51.0	寄託
5	横山 大観	1868-1958	霊峰不二	昭和16年頃	絹本・彩色・額装	36.0×94.0	北茨城市寄託
6	下村 観山	1873-1930	日の出・雪梅	明治41年頃	絹本・彩色・軸装(対幅)	各108.5×41.0	
7	木村 武山	1876-1942	雪	明治38年頃	紙本・淡彩・軸装	106.0×33.7	寄託
8	土田 麦僊	1887-1936	熊野の冬	大正6年	絹本・彩色・軸装	137.5×43.5	
9	榭原 紫峰	1887-1971	雪中狐鹿之図	大正10年	絹本・彩色・軸装	146.1×51.2	

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
10	中村 岳陵	1890-1969	飛雪 <small>ひせつ</small>	昭和前期	紙本・彩色・額装	58.0×70.8	寄託
11	速水 御舟	1894-1935	寒林	大正14年	絹本・墨画彩色・軸装	27.8×39.1	
12	酒井 三良	1897-1969	雪	昭和38年	紙本・彩色・額装	74.0×105.0	
13	小林巢居人 <small>そうきょじん</small>	1897-1978	田園の四季(冬)	大正12年	紙本・淡彩・卷子	22.0×519.0	小林登氏寄贈
14	小林 恒岳	1932-	越寒	昭和58年	紙本・彩色・額装	162.1×130.3	寄託
15	高橋 秀年	1953-	清夜	平成11年	紙本・彩色・額装	224.5×179.5	第5回天心記念茨城賞
16	岡田 眞治	1962-	冬のベネチア	平成15年	紙本・彩色・額装	215.0×170.0	第9回天心記念茨城賞

〈水彩画〉

17	春日部たすく	1903-1985	盆地(冬)	昭和35年	水彩・紙・額装	73.0×117.0	
18	春日部たすく		蕾 <small>つぼみ</small> (辛夷) <small>こぶし</small>	昭和57年	水彩・麻布・額装	91.0×51.0	作者寄贈
19	春日部たすく		落葉(辛夷)	昭和57年	水彩・麻布・額装	91.0×51.0	作者寄贈
20	小堀 進	1904-1975	残雪	昭和31年	水彩・紙・額装	55.0×74.5	小堀昭氏寄贈
21	三橋兄弟治 <small>みつはし兄弟治</small>	1911-1996	古城新雪	昭和59年	水彩・紙・額装	112.0×145.0	

〈油彩画〉

22	黒田 清輝	1866-1924	庭の雪	明治38年	油彩・板・額装	34.0×26.0	
23	久米桂一郎	1866-1934	雪の庭	明治31年	油彩・板・額装	23.5×32.5	
24	小杉 未醒	1881-1964	濱の冬	明治44年頃	油彩・麻布・額装	60.8×80.0	
25	金山 平三	1883-1964	氷滑り	大正11年頃	油彩・麻布・額装	24.0×33.0	
26	海老原喜之助	1904-1970	雪中行軍	昭和5年	油彩・麻布・額装	90.5×72.2	
27	田村 一男	1904-1997	北信冬	平成2年	油彩・麻布・額装	145.5×89.4	
28	山口 薫	1907-1968	雪原	昭和33年	油彩・麻布・額装	53.0×65.0	
29	西田 亨	1920-	霧水の朝	昭和50年	油彩・麻布・額装	162.0×130.0	
30	田中 良	1923-	北の浜辺	昭和56年	油彩・麻布・額装	130.3×193.9	作者寄贈

第4回所蔵品展 戦後日本画へのいざない 前期:平成19年2月17日(土)～3月4日(日)
後期:平成19年3月29日(土)～4月22日(日)

戦後、海外との交流が盛んになり、日本画においても欧米美術を進んで取り入れるなど、新たな絵画表現が生まれ多彩になってゆく。そこでは、厚塗りの技法や造形性を重視する表現なども目立って多くなる一方で、改めて伝統絵画の良さを生かした独自の作品も描かれている。

本展では、戦後の日本画壇をリードした東山魁夷、杉山寧をはじめ、天心記念茨城賞を受賞し、現代の美術界で活躍する西田俊英、宮北千織など、それぞれの個性に託し描かれた多彩な日本画22点を紹介した。

●出品目録

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
1	小林巢居人 <small>そうきょじん</small>	1897-1978	きりはれる	昭和48年	紙本・彩色・額装	122.0×182.5	小林登氏寄贈
2	東山 魁夷	1908-1999	潮音 <small>うしな</small>	昭和44年	紙本・彩色・額装	53.7×72.7	寄託
3	杉山 寧 <small>やすし</small>	1909-1993	瀾 <small>らん</small>	昭和40年代	紙本・彩色・額装	72.5×54.5	寄託
4	浦田 正夫	1910-1997	日午 <small>にちご</small>	平成4年	紙本・彩色・額装	188.0×142.0	作者寄贈
5	吉田 善彦	1912-2001	浅間月明	昭和53年	紙本・彩色・額装	162.5×130.6	寄託
6	森田 曠平	1916-1994	女神春秋・花鎖め <small>はなしず</small>	昭和57年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	174.0×362.0	寄託
7	森田 曠平		女神春秋・龍田姫 <small>たつたひめ</small>	昭和58年	紙本・彩色・屏風四曲一隻	174.0×362.0	寄託
8	加倉井和夫	1919-1995	立琴	昭和57年	紙本・彩色・額装	218.5×119.0	寄託
9	川崎 春彦	1929-	襲 <small>しゅう</small>	平成10年	紙本・彩色・額装	172.0×215.0	作者寄贈
10	小谷津雅美	1933-	終宴	平成10年	紙本・彩色・額装	218.5×173.5	第4回天心記念茨城賞
11	田淵 俊夫	1941-	濃尾三川 <small>のうびさんせん</small>	昭和54年	紙本・彩色・額装	130.0×162.0	寄託
12	菊川三織子 <small>きくがわみおり</small>	1944-	花影	平成7年	紙本・彩色・額装	210.0×168.0	第1回天心記念茨城賞
13	齋藤 満栄	1948-	秋晨 <small>しゅうしん</small>	平成12年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第6回天心記念茨城賞
14	梅原 幸雄	1950-	花筏 <small>はないば</small>	平成13年	紙本・彩色・額装	181.0×546.0	寄託
15	高橋 秀年 <small>たけはし</small>	1953-	ザンスカール	平成5年	紙本・彩色・額装	216.0×170.0	寄託
16	西田 俊英	1953-	華孔雀 <small>はなくじく</small>	平成15年	紙本・彩色・額装	182.0×364.0	寄託
17	北田 克己	1955-	夜明けの地	平成15年	紙本・彩色・額装	175.0×220.0	寄託

No.	作者名(生年順)	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
18	川崎 麻児 <small>あきこ</small>	1959-	廻廊にて	平成12年	紙本・彩色・額装	180.0×180.0	作者寄贈
19	小田野尚之	1960-	来客	平成13年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	寄託
20	清水 由朗 <small>よしろう</small>	1961-	幕電	平成14年	紙本・彩色・額装	214.0×169.0	寄託
21	村上 裕二	1964-	白昼	平成10年	紙本・彩色・額装	169.8×214.0	寄託
22	宮北 千織	1967-	うつろふ	平成16年	紙本・彩色・額装	170.0×215.0	第10回天心記念茨城賞

3 岡倉天心記念室

(1) 五浦の作家たちの作品展示

茨城県近代美術館等が所蔵する横山大観、下村観山、菱田春草、木村武山ら五浦の作家たちの作品を選び、年6回の展示をした。

●会期及び出品目録

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
第1回 平成18年5月2日(火)～6月30日(金)							
1	横山 大観	1868-1958	飛泉	明治35年	絹本・彩色・軸装(対幅)	125.3×41.2	
2	横山 大観		月明	昭和6年頃	絹本・彩色・軸装	136.6×41.7	
3	下村 観山	1873-1930	納涼図	明治42年頃	絹本・彩色・軸装	84.0×50.0	
4	菱田 春草	1874-1911	秋溪	明治35年	絹本・彩色・軸装(対幅)	125.5×41.3	
5	木村 武山	1876-1942	小楠公	明治36年頃	紙本・彩色・軸装	140.3×64.8	
6	木村 武山		菅公太宰府配處之図	明治末期	絹本・彩色・軸装	111.0×41.0	
第2回 平成18年7月1日(土)～8月31日(木) 特別展示 旧サースピー・コレクション(天心の作品)							
1	岡倉 天心	1862-1913	海辺の松	明治37年	絹本・彩色・額装	49.4×87.9	寄託
2	岡倉 天心		ロバと人物	明治37年	絹本・彩色・額装	49.0×86.3	寄託
3	岡倉 天心		山水の図	明治37年	絹本・墨画・額装	80.7×27.4	寄託
4	岡倉 天心		竹の図	明治37年	絹本・彩色・額装	91.6×24.0	寄託
5	岡倉 天心		日の出(画賛)	明治37年	絹本・彩色・額装	63.3×46.7	寄託
6	岡倉 天心		月(画賛)	明治37年	絹本・彩色・額装	48.5×35.8	寄託
7	岡倉 天心		玉蓮	不詳	紙本・墨画・額装	25.0×35.0	寄託
第3回 平成18年9月1日(金)～10月31日(火)							
1	横山 大観	1868-1958	峠の夕	明治36年	絹本・彩色・軸装	40.5×65.5	
2	下村 観山	1873-1930	雨中鷺	明治41年頃	紙本・墨画・軸装	70.0×121.3	
3	菱田 春草	1874-1911	林和靖	明治41年	絹本・彩色・軸装	116.0×50.3	
4	菱田 春草		五浦ノ月	明治42～43年	絹本・彩色・軸装	113.6×50.7	
5	木村 武山	1876-1942	義家勿来関	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	120.3×50.7	寄託
第4回 平成18年11月1日(水)～12月28日(木)							
1	横山 大観	1868-1958	樹下美人	明治45年頃	絹本・彩色・軸装	123.0×51.0	
2	横山 大観		釈迦	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	117.2×50.4	寄託
3	菱田 春草	1874-1911	菊慈童	明治34年	絹本・彩色・軸装	120.0×49.8	
4	木村 武山	1876-1942	日本武尊	明治40年頃	絹本・彩色・軸装	124.7×33.7	寄託
5	木村 武山		黒猫	大正7年頃	絹本・彩色・軸装	127.2×41.5	大塚子之吉氏寄贈
第5回 平成19年1月2日(火)～2月28日(水)							
1	横山 大観	1868-1958	風雪に鷺	明治37-38年	絹本・墨画彩色・額装	87.1×49.8	寄託
2	横山 大観		雪影	明治37-38年	絹本・彩色・額装	77.1×53.8	寄託
3	横山 大観		筑波山	昭和3～5年頃	絹本・墨画金泥・軸装	28.5×36.5	寄託
4	菱田 春草	1874-1911	帰漁	明治37年	絹本・墨画・額装	49.4×73.3	
5	木村 武山	1876-1942	不動明王(模写)	昭和2年頃	絹本・彩色・軸装	123.0×72.0	寄託
第6回 平成19年3月1日(木)～4月30日(月)							
1	横山 大観	1868-1958	秋の夕	明治35年	絹本・彩色・軸装(対幅)	121.7×50.5	
2	横山 大観		葉桜	明治末期	絹本・彩色・軸装	117.0×42.0	
3	菱田 春草	1874-1911	春の朝	明治35年	絹本・彩色・軸装(対幅)	122.0×50.8	
4	菱田 春草		春の漁	明治42年頃	絹本・淡彩・軸装	122.8×51.0	寄託

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法・形状	大きさ(cm)	備考
5	木村 武山	1876-1942	貴紳観桜図	明治33~34年頃	絹本・彩色・軸装	119.8×49.5	
6	木村 武山		勇駒	大正9年頃	絹本・彩色・軸装	120×27.4	寄託

(2) 資料テーマ展示

- ・テーマ名 「天心とアメリカⅡー日本美術院の海外展ー」
- 期 間 平成18年4月1日～平成19年9月30日
- 内 容 明治37年(1904)に岡倉天心が渡米したとき、日本美術院の画家である横山大観、菱田春草らが同行した。その目的には、日本画を中心とした日本美術を紹介し、行き詰まった日本美術院の経営を打破することも含まれていた。展覧会は、天心と旧知の仲である、ビゲロウ、ラファージ、オリ・ブル夫人、サースビー姉妹らによって支援され大成功を収めた。今回は、当時の展覧会の資料を通してプロデューサー天心を概観した。
- 展示資料 「天心と日本美術院海外展」(解説パネル)
「アメリカでの天心の後継者」(解説パネル)
「日の出(画賛)」(複製)
「月(画賛)」(複製)
「ニューヨーク・タイムズ記事」(実物・写真)
「大観・春草作品展目録」(複製・コピー・写真)
「大観・春草・紫水作品展案内状」(実物・写真)
「センチュリー・アソシエーション, スタジオハウス」(写真)
「大観・春草・観山の出品作品」(写真)
- ・テーマ名 「日本美術院の五浦時代の実際」
- 期 間 平成18年10月31日～平成19年3月30日
- 内 容 五浦での天心や4人の画家たちの活動は、当初、大きく取り上げられることもあったが、実質的な活動を終えてからは、当時の資料が限られていることもあり、活動の実際が理解しにくい面があった。そこで、五浦での画家たちの動向を直接伝える当館所有の原資料等を展示するとともに、この時代を中心にした略年譜を示すことで、日本美術院の五浦時代の実際をわかりやすく紹介した。
- 展示資料 「明治39年6月13日付 矢部清助、河合寅次あて天心書簡 封筒」(実物)
「明治39年(推定)12月1日付 鈴木督次あて4者連名案内状 封筒」(複製/原資料, 個人蔵)
「五浦の月」明治40年9月26日『いはらき新聞』記事(実物)
横山大観作「五浦スケッチ」(実物)
「岡倉天心邸での中秋観月の園遊会(明治40年9月22日)」(解説パネル)
「五浦時代略年譜」
『北茨城風景絵はがき』より「八勝園」(写真パネル)